

組織目標評価報告書（平成28年度）

部局名：

情報統括センター

部局長名：

谷口 秀夫

| 目 標 | 目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組) |
|---|---|
| ①教育領域 | 自己評価 |
| ①-1 目標 | ①-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組 |
| ①全学必修科目となる「情報処理入門1」をセンター教員が主として担当するほか、全学の情報リテラシー教育の質向上に取り組む。 ②教育におけるICT環境を更に充実させるため、教育・研究支援情報システムを円滑に運用する。 | ①これまで各学部が個別に担当していた情報処理入門を当センター教員が主として担当し、共通教科書を作成して確実、体系的に教授することにより、情報リテラシー能力及び情報セキュリティ対応能力の向上を図ることができた ②教育を支援するICT環境充実のため、1)仮想PC環境(学内のどこからでもICTサービス利用が可能)、2)個人のPC、タブレット、スマートフォン等を活用した教室環境(アクティブラーニング環境)、3)教育活用に向けた動画の録画、配信環境の拡充を図った。 |
| ①-2 目標とする(重要視する)客観的指標 | ①-2 大学全体への貢献 |
| 担当する情報リテラシー教育のコマ数 教育・研究支援情報システムに関する問い合わせ件数 | ①当センター教員担当学生数が前年度比約10倍に増加したため、各部局の情報処理入門を担当する教員の負担が大幅に軽減した。 ②全学に対して高度なICT環境を安定して提供した。なお、1年次のパソコン保有状況は90%を超えた。 |
| ①-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況 | ①-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況 |
| | 「情報処理入門1」については、当センター教員が主導して計画・立案している。平成28年度は当センターの教員(4名)で502.5コマ(60分1コマ)を担当した。教育・研究支援情報システム、各種PC操作支援、セキュリティ対応支援に関する問い合わせについては、利用者相談窓口を設けてワン・ストップで対応している。平成28年度は、1,492件の問い合わせを処理した(軽微な問い合わせ対応は除く)。 |
| ②研究領域 | 自己評価 |
| ②-1 目標 | ②-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組 |
| ①情報統括センター業務に関連する研究を推進する。 ②研究におけるICT環境を更に充実させるため、教育・研究支援情報システムを円滑に運用する。 | ①科研費の採択数は新規1件、継続1件、論文発表数は5件、学会等発表は13件であった。 ②研究におけるICT環境充実のため、教育・研究支援情報システムを更新し、本稼働を行った。 |
| ②-2 目標とする(重要視する)客観的指標 | ②-2 大学全体への貢献 |
| 科研費の採択件数 論文発表件数 学会等活動件数 | ②全学に対して高度なICT環境を安定して提供した。 |
| ②-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況 | ②-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況 |
| | 科研費の申請に関しては原則、全教員が申請することとしている。また、論文発表や学会活動等についても積極的に関わっている。 |
| ③社会貢献(診療を含む)領域 | 自己評価 |
| ③-1 目標 | ③-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組 |
| ①ICTに関する公開講座を実施するなど地域貢献を推進する。 ②副幹事校として中・四国地区国立大学法人等情報化連絡協議会の会議を開催する。 ③国立大学情報系センター協議会幹事として、協議会の運営を支援する。 | ①ICTに関する公開講座は、「Word活用基礎講座」「インターネット活用と情報セキュリティ基礎講座」の2講座を無料で開講し、73人が受講した。受講後のアンケートでは、回答者の95%以上が、「とても満足」「満足」と回答している。 ②国立大学法人等情報化連絡協議会の中国地区の副幹事校として、3月13日開催の地区会議の取りまとめを行った。 ③国立大学情報系センター協議会幹事として、協議会の運営を支援した。 ④岡山県庁、商工会議所の主催するセキュリティ講習会の支援、講演を行った。 |
| ③-2 目標とする(重要視する)客観的指標 | ③-2 大学全体への貢献 |
| 公開講座の受講者数と評価内容 | ①市民に対して最新のICT情報を分かりやすく提供することで本学のイメージアップを図った。 |
| ③-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況 | ③-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況 |
| | 公開講座に関しては、ホームページや山陽新聞の情報ひろば等を使って広報を行っている。 |

| | |
|--|--|
| ④センター業務 | 自己評価 |
| ④-1 目標 | ④-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組 |
| <p>①学内情報環境の利便性及び安定性の向上に努める。</p> <p>②岡山大学情報セキュリティポリシーの遵守を徹底する施策と、更なる情報セキュリティの向上を目的とした教育を実施する。</p> <p>③岡山大学情報データベースの更新について検討するとともに、データ(教育、研究、管理運営等)を蓄積し、利活用に貢献する。</p> <p>④留学生の増加や、海外留学を支援するグローバル化に対応するため、ICT環境の整備やサービス内容の多言語化を行う。</p> <p>⑤ヘルプデスクの強化により、学生・教職員への支援を充実させる。</p> <p>⑥学内ネットワークの導入スケジュールを策定する。</p> | <p>①学内情報環境の利便性及び安全性の向上では、次のようなことを実施した。</p> <p>1)無線LANのアクセスポイント数を70台増加した。2)情報システムの利用促進説明会を10回開催した。3)情報システムのBCP対策の強化</p> <p>②セキュリティポリシー遵守の施策では、次のことを実施した。</p> <p>1)情報セキュリティポリシーの全面改定を行い、関連規程の整備を行うとともに、大学全体の情報セキュリティインシデント対応を行うCSIRTを設置した。2)最新の情報セキュリティシステムの運用による高度なマルウェア検知や出口対策を実施した。3)5件の情報セキュリティインシデントについて、被害拡大の防止策、と文科省報告を行った。4)国際規格であるISMS(情報セキュリティマネジメントシステム)の再認証を獲得した。</p> <p>情報セキュリティ向上を目指した教育では、次のようなことを実施した。</p> <p>1)e-Learningによるセキュリティ教育を実施した。2)新入生を対象に情報セキュリティや情報コンプライアンスの授業を実施した。</p> <p>③岡山大学情報データベースでは、教職員活動情報や学生履修情報等、大学経営に必要な情報、教育の質保証に必要な情報を継続的に蓄積し、蓄積情報の最新化を進めた。また、関連部署に47件のデータ提供を行い、蓄積データの利活用に貢献した。</p> <p>④グローバル化に対応するため、情報実習室PCの多言語化、各種マニュアル、申請書及びホームページの英語化を行った。</p> <p>⑤ヘルプデスクでは、学生サポーターを新規に3名採用し、ICTサービスへの細かい学生支援及び新しいICTサービスの検証と広報を拡充を行った。</p> <p>⑥学内ネットワーク更新の導入スケジュールを策定し、仕様書作成に着手した。</p> |
| ④-2 目標とする(重要視する)客観的指標 | ④-2 大学全体への貢献 |
| <p>セキュリティマネジメントシステムの認証更新 セキュリティのe-Learningの受講率 目標値:前年度比増 提供するサービスの多言語化 ネットワーク、サービスの安全性 セキュリティインシデント発生件数</p> | <p>①全学に対して高度なICT環境を安定して提供した。</p> <p>②全学の情報セキュリティ強化について大いに貢献した。</p> <p>③全学のIRの基礎データの提供に関して貢献した。</p> <p>④全学の留学生等に対してICT環境の改善に貢献した。</p> <p>⑤全学の利用者に対してICT環境の改善に貢献した。</p> |
| ④-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況 | ④-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況 |
| <p>セキュリティマネジメントシステムの認証更新については、事務局を立ち上げて対応している。</p> <p>セキュリティのe-Learningの受講に関しては、情報統括センター運営委員会を通じて受講率向上を依頼している。平成28年度は、教職員が24パーセント、学生が3パーセントの受講があった。</p> <p>提供するサービスの多言語化に関しては重要と思われるものから順次対応している。</p> <p>ネットワーク、サービスの安全性に関してはICT運用管理グループが中心となり、監視システム等を活用して対応している。</p> <p>セキュリティインシデントに関してはCSIRTを新設し対応を強化している。</p> | <p>セキュリティマネジメントシステムの認証更新については、事務局を立ち上げて対応している。</p> <p>セキュリティのe-Learningの受講に関しては、情報統括センター運営委員会を通じて受講率向上を依頼している。平成28年度は、教職員が24パーセント、学生が3パーセントの受講があった。</p> <p>提供するサービスの多言語化に関しては重要と思われるものから順次対応している。</p> <p>ネットワーク、サービスの安全性に関してはICT運用管理グループが中心となり、監視システム等を活用して対応している。</p> <p>セキュリティインシデントに関してはCSIRTを新設し対応を強化している。</p> |
| 【総括記述欄】 | |
| <p>※全般的に今年度の組織目標を達成している。</p> <p>教育領域、研究領域、社会貢献領域及びセンター業務に関して、上述したとおり、良好であると判断している。</p> <p>特に「センター業務」の情報セキュリティ分野に関しては、情報セキュリティポリシーの全面改定等の体制面の強化、情報セキュリティインシデント対応及びISMSの再認証獲得等、特筆すべき成果を挙げることができたと考えている。</p> <p>次年度は本学のICT環境の基盤であるキャンパス情報ネットワークの更新を予定しているため、遺漏の無いように完遂したい。</p> | |